

三浦半島支部だより

発行者: 社団法人宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部 企画・広報委員会
事務局: 鎌倉市津西 1-31-15 Tel:0467-32-4957

支部長挨拶 古川 勝彦



(社)宮陵会三浦半島支部長の古川(昭和40年経済卒)でございます。当支部も、皆様の支えやご協力のおかげで、早いもので7年目を迎えております。感謝の一言であります。

さて、2月2日の支部新年会には、お忙しい中を会員の皆様やご来賓、会員外の人達にご参加をいただき、厚くお礼申し上げます。

おかげさまで、第1部では神奈川大学秋山憲治経済学部教授から、「東アジアの経済連携について～TPP交渉参加をめくって～」と題した新春講演会を行っていただき、TPP参加の重要性を理解いたしました。

また、第2部の懇親会では、アトラクションとして神奈川大学平塚ジャズ研究会“パエリヤ”の現役学生の演奏等もあり、参加者の交友の輪を拡げることができました。

ところで、正月恒例の「箱根駅伝応援」では、当支部担当地区の保土ヶ谷駅前に、支部会員ほか南支部会員を含め、多数応援にご参加いただき、お礼申し上げます。

結果は、総合16位とシード権確保には至りませんでした。2、3年後には必ずや優勝争いに絡むとの決意が報告会で発表されました。大いに期待したいものです。

支部発足以来、種々苦難を乗り越え、現在、支部の体制構築と活動の充実に取り組んでおりますものの、まだまだ道半ばであります。基本姿勢は、皆様と力を合わせ知恵を出し合い、地道な活動を重ねつつ、私見として「神奈川の地に神奈川大学の礎を強固に築き、卒業生が各界、地域で繋がり、輪を拡げて協力、助け合わなければならない。」と、強く考えております。

最後に、いつも思いますことは、会員皆様をはじめ役員の方々に感謝しております。引き続き皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願いいたします。

新役員の紹介と抱負

平成24年度の役員改選で新しい役員が誕生いたしました。新役員の皆様をご紹介します。

●大倉国光(幹事・横須賀) 昭和38年法律卒



平成24年度宮陵会三浦半島支部総会において、横須賀地区幹事に選出させていただきました。横須賀市役所に在職中は、神大同窓会(「みやも会」と称します)で活動

しておりました。平成24年度現在、会員数は94名おり、それなりの活動しております。当支部の事業目的でもあります会員の増強に、嶋田晃地区幹事と共に、努めたいと存じます。今後ともよろしくお願いたします。

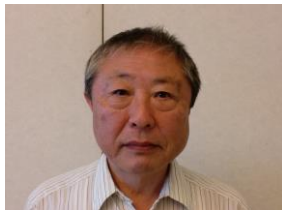
●長谷川征勝(幹事・横須賀) 昭和40年貿易卒



大学を卒業して47年、まさか宮陵会三浦半島支部役員のお声がかかると思っていませんでした。在学中は体育会軟式庭球部に所属して

いたしたので、その同窓会は今では3か月に1度と頻りに集まっており、その幹事役を務めています。世に同窓会は小・中・高・大学そして出身企業と沢山あると思います。その意義は、「旧交を温める」ということでもあります。私は、「皆さんにお会いして、その時々を思い出すことで、自らの熱き活力を甦らせる」というところにあるのではないかと考えています。加齢していくなかで、心だけはできるだけ若くありたいと願っています。いろいろなところに顔を出している私ですが、三浦半島支部が益々発展していけますよう、微力ながら役割の一端を担っていきたくと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

●久保田宣彦（幹事・横須賀）昭和44年法律卒



学生時代は空手部に所属し、あまり勉強をした記憶がありません。卒業してすぐに父の経営していた有限会社ヤマヨク保田商会に入社、現在に至って

います。

三浦半島支部に入会して新年会・総会を合わせても、3～4回ぐらいしか出席していないのに、「役員になってくれ！」・・・と、願うというよりも否応なしに役を押し付けられた感がありました。

昨年の10月、城ヶ島京急ホテルで役員会が開催された時、支部長を筆頭に先輩役員全員、母校を誇りに思う熱い心が伝わってきました。

自分が想像していた役員会とはまったく異なり、明るく分け隔てなく接して頂き本当に楽しい役員会でした。その後に懇親会を行いました、非常に盛り上がり楽しいひとときを過ごしました。

今では、役員に推薦して頂いたことに感謝しています。三浦半島支部にどれだけお役にたてるか自信はありませんが、自分なりに努めさせていただきます。

●武井利徳（幹事・横須賀）昭和45年経済卒



このたび推薦をいただき、宮陵会三浦半島支部の新役員をお引き受けさせていただきました。微力ですが、「当会」の発展・興隆に少し

でもお役に立てるよう尽くす所存です。役員諸氏、諸先輩ならびに会員各位のお力添えを何卒宜しくお願い申し上げます。私は近々43年間の会社人生を終え、第2の人生のスタートを迎えます。同じゼミ（小山 伝造先生）仲間は、すでにリタイヤ組が殆どで、ホームカミングデーに合わせて開催した同窓会を契機に、ここ数年来定期的に会う機会が増えました。同時代を共有した同窓の仲間との「集い」は一瞬にして当時にフラッシュバックし、同時に母校への思いも益々強くなっています。特にスポーツや各クラブの活躍では、大いに盛り上がっております。

「当会」はゼミ仲間の「集い」とは趣を異にし、幅広い年代層の多士済々の方々との交流や講演会等、毎回新たな友好や知識を深めることができ、有意義な時間を持つことができることに感謝しております。このような実

り多い「当会」の発展のために、重ねてではありますが、会員諸氏のご協力を賜りたいと存じます。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

●石渡大輔（幹事・三浦）昭和56年法律卒



平成24年度三浦半島支部総会において、三浦地区幹事に選任されました石渡大輔

です。支部に入会して、若い卒業生の会員が少ないと感じております。三浦半島支部に若い会員の方を増やそうべく、先輩諸氏の応援をいただきながら活動していきたいと思っております。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

平成25年支部新年会を開催

～新春講演会・懇親会～



宮陵会三浦半島支部副支部長の砂川正夫（昭和44年経済卒）です。新年会で責任者を務めましたので、新年会の様子をご紹介します。

さる平成25年2月2日（土）、京急横須賀中央

駅近くのセントラルホテルで第7回宮陵会三浦半島支部新年会が開かれ、一般参加を含め70名の参加があった。

今年も2部構成で行われ、第1部講演会は久保田宣彦氏（昭和44年法律卒）の司会で進行。まず、古川勝彦支部長（昭和40年経済卒）より主催者を代表して「新年のあいさつ、並びに多数のご来賓の参列」と、三浦半島支部に対するご支援の御礼」等の挨拶があった。

その後、神奈川大学経済学部教授 秋山憲治氏による「東アジアの経済連携について～TPP交渉参加をめぐる～」と題しての講演があった。秋山教授は、「TPPは第三の開国として打ち上げ、その後国内では反対ムードで進行しているが、それで良いのか。米国、中国、韓国並びに各国も経済規模の大きな日本の市場の重要性を認識している。ASEAN10カ国の駆け引きの中で、確固たる日本の立場を主張出来るのか。市場アクセス分野で、特に日本では生活保護型になって

いる農業政策に結論を出せるのか。政治的色彩を帯びる経済外交。結ばなくても産業は進んで行く。結ばなければなお悪くなる。いずれにしても結論を出さねばならない」と、秋山教授の講演要旨であるが、政府が外交問題をいかに乗り切れるか。また、経済問題の接近で日中韓の領土問題が多少とも融和が図れるかどうか。今まさに時代を感じる80分の講演であった。

講演が終了し、ホールで全員による記念撮影。



参加者全員による記念撮影（H25.2.2 セントラルホテルにて）

引き続き9階パールの間で懇親会開催。

第2部懇親会に入り1部同様、久保田氏の司会で進行。古川支部長の挨拶で始まり、神奈川大学伊藤文保理事長（昭和



39年経済卒）より「新年会の盛会と箱根駅伝の応援御礼、さらには5年後をめざしての選手強化、学長交代」等の話があった。（左写真）
続いて、宮陵会を代

表して宇久田進治専務理事の挨拶と乾杯の発声を頂き、前神奈川大学準硬式野球部監督の鈴木和夫氏（昭和46年法律卒）からは、大学より功労賞受賞の御礼報告があった。

宴も佳境に入り、アトラクションとして神奈川大学平塚ジャズ研究会“パエリヤ”の皆様方の演奏、そして飛び入りで前吹奏楽部監督の田原清彦氏（昭和49年貿易卒）が加わりさらに場が盛り上がった。来賓の横浜市南支部長の勝巖氏（昭和39年経済卒）、前官房副長官の斎藤勁氏（昭和44年法律卒）、宮陵会体育振興委員会委員の平出功氏（平成11年化学卒）の挨拶を頂戴した。

会も終盤に入り堀越昌樹氏（昭和62年法律卒）の校歌斉唱そして松岡和行氏（昭和54年法律卒）の中締めで盛会の内に幕を閉じた。その後、別れを惜しみつつ三々五々第二会場、第三会場に向かう会員が多数あった。



アトラクションとして平塚ジャズ研究会“パエリヤ”

新春講演会

神奈川大学経済学部教授 秋山憲治先生

◎秋山教授プロフィール

1948年埼玉県生まれ。1971年横浜国立大学経済学部卒業。1976年横浜市立大学大学院経済学研究科修士課程終了。愛知大学経営学部教授を経て、1997年4月より神奈川大学経済学部教授。経済学博士。2009年4月から2011年3月まで神奈川大学経済学部長。日本貿易学会元会長、日本経済学会連合元理事、アジア市場経済学会理事。

専攻：国際経済論、貿易政策

近年の著書：「東アジアの地域協力と秩序再編」（共著 お茶の水書房 2012年）「米国・中国・日本の国際貿易関係」（白桃書房 2009年）「経済のグローバル化と日本」（お茶の水書房 2003年）など

<講演テーマ>「東アジアの経済連携について」 ～TPP交渉参加をめぐって～



秋山憲治神奈川大学教授は「東アジアの経済連携について～TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉参加をめぐって～」を演題

に講演。「TPPに参加することは、国内既得権益との摩擦は大きい、ハイレベルな自由化交渉はFTA（自由貿易協定）より成果が大きい。TPPに参加するかしないかに関わらず農業問題は避けて通れない」「どちらか一方という選択肢はなく、両方とも重要だ」とTPPへの参加交渉をすべきだと述べた。講演要旨は次の通り。

○講演要旨

①アジア太平洋地域における経済連携には、APEC（アジア太平洋経済協力）、RCEP（東アジア地域包括的経済連携）、ASEAN（東南アジア諸国連合）、TPPの4種類がある。途上国に配慮しASEANと日中が主導するRCEPは、16か国・34億人と最大だが、世界のGDPに占める割合は28.4%に過ぎない。一方、関税原則撤廃方針で米国の主導するTPPは、日本が参加すれば12か国・8億人に過ぎないが、世界のGDPに占める割合は38.2%となる。TPPに日本が加入すれば、日米2国だけで全TPP加盟国のGDPの90%を占め、実質的な日米FTAだ。一緒にRCEPをと日本に働きかける中国は、政治的、外交的、安全保障上から日本のTPP加盟に反対だ。

②TPPの交渉分野は、主として2つに分類される。1つは市場アクセス分野（市場開放）である。農産物を含む例外なき関税撤廃や、金融・保険・通信などのサービス分野だ。二つ目はルール形成分野。知的財産権や環境、労働分野など。

③米国は、2008年のリーマンショック以降の経済不況で、輸出先に元気の良いアジア地域との経済連携を考え、中国の主導のもと米国抜きに進行する東アジア共同体（ASEAN+3、または6）に懸念をいだき、TPP締結を契機にFTAAP（アジア太平洋自由貿易圏）を形成し、中国中心の東アジア市場と自己権益の確保を図ろうとしている。

④農業は、日本ばかりでなく米国やヨーロッパも保護産業である。日本の農業は生活保護型であり、保護すればするほど弱体化してしまう。競争力強化型農業や観光・環境農業など多面的機能を持つ農業に育成していかなければならない。日本の農業は、TPP参加に関係なく衰退危機的状況にある。TPP参加は、競争力強化となる農業政策を打ち立てる良い契機となる。また、TPP参加で食料調達協定を結ぶことができ食料安定保障に役立つし、国内の農産物を輸出でき活性化する。

⑤エネルギー革命を起すといわれる安価なシェールガスの採掘技術を発見した米国は、その輸出先をTPP参加国

とそうでない国とに差をつけかねない。

⑥中国の基本的スタンスは、ASEAN+3で、穏やかな協定に基づく東アジア共同体。TPPによる日本への米国関与を懸念し、ASEAN+6も受け入れるという姿勢だ。韓国は、1997年のアジア金融危機以降、米国やEUとのFTA戦略を持ち、巨大市場・中国とのFTA締結を優先する。日本とのFTAには積極的でない。TPPで分断されるのではという懸念を持つASEANは、東アジア経済統合において中核的な役割を担う。（文責 原柳作）

第44回全日本大学対校選手権大会 第89東京箱根間往復大学駅伝競争

今年度の陸上競技部は、学生三大駅伝の秩父宮杯第44回全日本大学対校選手権大会と箱根駅伝に出場しました。

● 第44回全日本大学対校選手権大会

全日本大学対校選手権大会は、学生駅伝日本一を決める大会として名を馳せています。神奈川大学は、第28回と29回大会で連覇した成績を持っていますが、近年は出場することができませんでした。今年度は関東学生陸上競技連盟推薦選考会を総合4位の成績で、6年ぶり13回目の出場を勝ち取りました。久々に伊勢路を神大のプラウドブルーの襷が駆け抜けました。

第44回全日本大学対校選手権大会の成績

◎関東地区予選会：平成24年6月30日（土）

国立競技場

5校の予選通過枠をかけて20校が、10Kmのトラックを走り、タイム上位5校が出場。

☆成績：順位 **4位**（1位：山梨学院、2位：日本体育、3位：帝京）

◎本選：平成24年11月4日（日）

26チームが愛知県名古屋市熱田神宮西門前カート三重県伊勢市伊勢神宮内宮宇治橋前J-ル：106.8Km

☆成績：順位 **10位**

タイム 5時間23分23秒

トップとの差 10分40秒（優勝：駒沢大）

シード校との差 4分34秒

（上位6位シード権獲得 6位：日大）

<特記すべき成績>

<予選会> 40位以内

- ・30位：我那覇 和真(1年生)
- ・33位：柿原 聖哉(2年生)
- ・34位：西山 凌平(1年生)

<本選>

- ・2区：我那覇 和真(1年生) 4人抜き(14位⇒10位)
区間8位の走り
- ・6区：柏部 孝太郎(2年生) 2人抜き(10位⇒8位)
区間8位の走り

<特記すべき成績>

<予選会> 50位以内

- ・39位：柿原 聖哉(2年生)
- ・45位：西山 凌平(1年生)
- ・46位：鈴木 駿(4年生)
- ・48位：赤松 宏樹(2年生)

<本選>

- ・7区：我那覇 和真(1年生) 3人抜き(区間1位の走り)
- ・8区：吉川 了(4年生) 1人抜き(区間4位の走り)
- ・6区：高久 芳裕(4年生) (区間9位の走り)
区間10位の走り：3区小泉和也(2)、4区赤松宏樹(2)

● 第89回東京箱根間往復大学駅伝

三浦半島支部は、いつもの通り予選会は国営昭和記念公園で、本選はJR保土ヶ谷駅から国道1号線を横浜方面に120mほど行った「円福寺前」信号そばで、往路2区西山選手と復路9区鈴木選手を応援しました。

本選には、3年連続44回目の出場で、勢いのある1・2年生とスタミナ豊富な4年生がかみ合えば、8年ぶりのシード権獲得も夢ではないとの前評判がありましたので、例年になく力が入った応援を繰り広げました。

成績は、5区の山登りが残念な結果で、往路のタイムがトップから19分48秒差の18位となり、厳しい結果に終わりました。しかし、復路で11位と健闘し、最終的には総合16位となりました。



9区 横浜保土ヶ谷駅周辺での鈴木駿選手の力走と応援

第89回東京箱根往復大学駅伝競走の成績

◎予選会：平成24年10月20日(土) 9:30スタート

陸上自衛隊立川駐屯地スタート～国営昭和記念公園ゴール

9校の予選通過枠をかけて45校が、20Kmのコースで競った。

☆順位 6位(レース順位6位)

◎本選：平成25年1月2日(水)・3日(木)

3年連続44回出場

往路成績(108.0Km) 順位18位(昨年15位)

復路成績(109.9Km) 順位11位(昨年17位)

総合成績：16位(11時間37分36秒)

昨年15位(11時間20分22秒)

トップとの差 24分10秒(昨年28分46秒)

シード校との差 10分02秒(昨年6分40秒)

神大駅伝の復活を期して

(2つの予選会と全日本大学駅伝を通して)

村田 龍也 (昭和39年経済卒)



学生三大駅伝の一つである秩父宮杯第44回全日本大学対校選手権大会が好天気に恵まれた11月4日(日)26チームが参加し、熱田神宮から伊勢神宮までの8区間

(106.8Km)で開催され、駒沢大が2連覇10度目の優勝。6年ぶりに出場した神奈川大学は10位の成績を残した。

神大の各区間の選手の成績は、次のとおりであった。

区	距離	氏名	学年	出身高校	区間順位
1	14.6Km	西山 凌平	1	伊賀白鳳	14
2	13.2	我那覇 和真	1	東京実業	8
3	9.5	柿原 聖哉	2	関大北陽	11
4	14.0	小泉 和也	2	鳥取中央育英	9
5	11.6	吉川 了	4	智辯学園	7
6	12.3	柏部 孝太郎	2	三島北	8
7	11.9	井上 雄介	2	九州学院	14
8	19.7	鈴木 駿	4	藤枝明誠	11

この本選に出場するためには、シード権(前年6位迄)のない大学は、6月30日(土)国立競技場で行なわれた関東地区予選会で5位までに入らなければならない。予選会は、各校2名ずつでトラックを1万m走り、計4組8名の合計タイムで競った。当日は梅雨時には珍しく快晴の中、現役学生は勿論、中島学長、正野法人常務理事、宮陵会からも多くの役員はじめ我が三浦半島支部や各支部卒業生、大学教職員が6年ぶりの出場権獲得を願い、スタンドに集合。陣地を張って母校の選手に大声援を休むことなく送り続けた。その声が届いたのか、選手達が我々の期待に答えてくれ、堂々4位の成績で出場権を獲得してくれた。応援隊は歓喜に沸きに沸いた。

本年は残念ながら10位の成績であったため、来年も予選会からではあるが、有望な1・2年生の若い選手が多いため、来年は本選出場、シード権獲得を期待したい。

もう一つの予選会、「正月の風物詩」箱根駅伝のそれである。平成10年に母校神奈川大学の選手が、箱根路を走る姿が見えず、なんとなく寂しく静かな正月を過ごした。10月20日(土)立川の昭和記念公園で第89回箱根駅伝予選会が秋空快晴の中で開かれた。選考基準は各校12名の選手が20Kmを走り、そのうち上位10名の合計タイムで6位までを選出、9位までがタイム合計プラス関東インカレポイントを加味した時間で選出される。インカレポイントの少ない神奈川大学は、6位までに入りたい。私は当日所用のため応援には行けなかったが、中島学長、正野常務理事はじめ多くの学生、教職員、卒業生が各応援ポイントに分散して盛大な応援を展開したと聞いている。

10人のゴール結果が3番目、タイムでは「6位」で予選通過。選手諸君ありがとう！

聞くとところによると、数年来の強化策の結果が出ている

とのこと、2つの予選会と全日本大学対校駅伝の戦いで4年生が活躍した以上に1・2年生の活躍が顕著である。(箱根予選会10名のうち4年生3名、2年生4名、1年生3名)「神大黄金時代」の復活を期待したい。

第89東京箱根間往復大学駅伝競争

予選会の応援

若林 秀明

(昭和39年経済卒)



10月20日(土)に立川の陸上自衛隊立川駐屯地(国営昭和記念公園)で、各校12名の選手が20Kmを走る箱根駅伝予選会が、9:30 スタートで行われま

した。早朝にもかかわらず、スタート地点のフィールドでは、応援合戦が行われ、応援団の大きな声と共に太鼓をたたく音が響き渡っていました。神大では、応援団とチアガールによる演技が整然として行われました。

スタート地点は観覧席のはるか向こうのほうで、スタート合図の音だけが聞こえ、数分後に先導する白パイと走者がやってきました。神大の選手は先頭集団で、ほぼ団子状態で通過しました。予選会の会場が広いので、その後の移動に時間がかかり、広場のモニター画面に着いたときは、トップがゴールする寸前でありました。

神大の10人目の選手のゴールはだいぶ早かったので、予選通過は楽勝と思いましたが、結果発表のときは、なかなか神大が呼ばれないので、気をもんでしまいました。結果としては、6位で通過となりましたが、はらはらどきどきの日でありました。箱根駅伝本番での活躍を期待しながら帰路につきました。

<わが支部の紹介>

横浜市 南支部 勝 巖



私は昨年南支部長に就任致しました勝 巖(昭和38年経済卒)と申します。

始めに、当支部のショートストーリーをご紹介しますと、休眠中であつた

支部を再建準備世話人岡村 大氏（昭和17年法科卒）のご提唱と賛同する有志とで、支部再建総会を平成6年（1994年）2月に開催致しました。

第一回「定例会」は、会の趣旨を「会員等の親睦を深めることが、主たる目的の気楽な会とする」とし、支部長は岩崎幸雄氏（昭和20年経済卒）で、平成6年（1994年）4月にスタート。以来、多彩なイベントを催してきました。特に当支部と箱根駅伝との関係が深く、「箱根駅伝に神大を優勝させる会」の立ち上げ（平成5年8月）及び運営に多くの会員が参加致しました。現在も「愛校会」（宮陵会 手塚体育委員長）に有志が加わり活動しています。

私の手元にある資料を記します。第三回定例会（平成6年9月）の様子は、「20数名が会場を満たし会員の堤宏氏（昭和33年電気卒）の駅伝選手の北海道合宿を密着取材した楽しいレポートに、一同、話に花、時の過ぎるのを忘れてしまうほどでした」と、結ばれています。因みに箱根駅伝の成績はこの年7位で、翌年は6位と日の出の勢い。ついに平成9年（第73回）に初優勝致しました。

次に再建から7年目の平成13年（2001年）4月の第31回の定例会（岡村 大氏急逝による偲ぶ会）までは、年間約4回強のペースで開催していました。最近は残念ながらめっきり減ってしまいました。

昨年 10 月に開催した支部総会（出席者 20 名）は、大学・校友課の清水課長、宮陵会の平能副会長及び古川三浦半島支部長のご出席をいただき、18 年間の長きに亘り南区支部長として貢献頂いた岩崎幸雄氏への功労表彰の授与式が挙行され（奥様もご出席）素晴らしいセシモニーになりました。

この総会で 11 月以降の第三水曜日「三水会と呼称する」に、自由参加で懇親会を開くことが決定致しました。

当支部も長い間、新たな会員の獲得に効果的な対策はなかなか見いだせず苦戦中です。

- ① 今年度は春の臨時支部総会、秋の通常支部総会及び毎月の「三水会」で、現会員の親睦を図り情報交換の輪を広げて新たな会員を発掘する。
- ② 今年度も大学の行事に積極的に参加し、従来通り全日本予選会、箱根予選会、本選は JR 保土ヶ谷駅前まで応援し、支部の一体化及び活性化を目指す。
- ③ 現在約 1200 名を超える会員に如何にして支部の存在を認知して貰えるか。何か良い知恵はありませんか？

最後になりましたが、当支部の紹介記事を掲載して頂きありがとうございました。

＜紹介コーナー＞わが社・わが店・わが商品

「株 カレンズ」 木 村 仁



神奈川大学宮陵会磯子区支部の木村と申します。昭和48年貿易卒業です。今回、古川支部長から“会報に寄稿しなさい”という大命令で、恐る恐る手前どもの会社を

自己紹介させていただきます。前号を読まさせていただきますと色々なサービス・メリットが無いと、なんか頭が高いと言われるので、荒崎から飛び込んだ気持ちで、サービスをご提示させていただきますので、宜しく願い致します。

小社は明治37年に横浜市中区で創業いたしまして、現在109年目に入っております。初代社長の鈴木春二氏から数えて、五代目社長を仰せつかっております。仕事は名入れカレンダー、名入れタオル、名入団扇を製造販売、また、記念品、販促商品、中元・歳暮商品の販売を、東京、神奈川を主体に活動いたしております。商品に依っては全国販売も手掛けております。カレンダー、タオル、記念品関連では、多くの先輩方、同輩、後輩の会社の皆様に大変お世話になっております。三浦半島地区は、横須賀、三浦、葉山、逗子の多くのお客様にお世話になっております。名入れカレンダー、名入れタオル、記念品、販促商品等作りたいと思っている方がおいでになりましたら、まず、**“神大卒の〇〇だけど、木村君いる”**って言ってもらえれば、即、お話しさせていただきます。必ず、皆様方にご満足の頂けるお話しが出来ると確信いたしておりますので、是非ご一報いただければ幸いです。また、現在、力を入れているのが冠婚葬祭の返礼品です。これは、今日・明日の急ぎの商品ですので、当社にイン千万円在庫をして、即日に出荷出来る体制になっております。この商品は、30%オフでお届けいたします。但し、必ず、**“神大〇〇年卒の××ですが、木村君いますか”**という事から始まりますので、くれぐれもよろしくお願い致します。合言葉は、**“神大卒”**です。宜しく願い致します。

小生、現在、神大柔道部の総監督、柔道部 OB・OG 会の会長を仰せつかっております。お知り合いの男女高校生で神奈川大学柔道部に入部したい学生がいらっしゃいましたら、是

非、御紹介下さい。神大に入れて、柔道をやらせて下さい。どうぞ宜しくお願い致します。

三浦半島支部様のご発展と会員皆様のご健勝とご繁栄をご祈念申し上げます。



(株)カレンズ 社屋

大学のニュース

●神奈川大学 新学長 決定



中島三千男現学長の任期満了に伴う学長選挙で、石積勝氏が当選し、1月25日の評議会を経て、2月7日の理事会で学長に任用されることになりました。任期は平成25年4月1日から平成28年3月31

までの3年間です。

石積勝（いしづみ まさる）氏は、昭和25年7月11日生まれの62歳で、新潟県生まれ。新潟県立長岡高等学校卒業。上智大学外国語学部英語学科を卒業後、トロント大学政治学研究科修士課程に進学、政治学修士の学位を受けられました。丸紅(株)、国際連合本部事務局職員、国際大学専任講師、東洋女子短期大学助教授を経て、平成1年神奈川大学経営学部助教授として赴任し、平成4年に教授になられました。国際交流センター所長、経営学部長、副学長を歴任され、本年4月1日から学長に就任されます。専門は政治学、国際関係論。特に神島二郎の政治理論を手がけていらっしゃる。近年の著書・論文は、「大学生、ボランティアの襷をつ

なく」（共著 お茶の水書房 2012年）、「再び挑戦を受ける日本というシステムとアドミニストレーター」（単著 神奈川大学評論 第67号 2010年）ほか多数あります。

<特別寄稿>

準硬式野球部

「監督25年の思い出」 鈴木和夫



昭和46年法律卒の鈴木と申します。昭和62年から昨年11月までの25年間、準硬式野球部の監督をさせていただきました。部の紹介や思い出等を思いつくままに書かせていただき

ました。

私は、昭和62年に上沼野球部長（経済学部教授・マーケティング）より体育会 準硬式野球部監督の命を受け、昨年11月4日まで準硬式野球部の監督を務めさせていただきました。その後昨年11月に、神大ラックスホールにて「鈴木和夫監督の慰労会」の看板を掲げ、盛大に慰労会を催していただきました。

当日は、中島学長をはじめ初代準硬式野球部部長の古川知生氏、当支部（三浦半島支部）の支部長古川勝彦氏（昭和40年経済卒）、体育振興委員のご歴々、神奈川大学準硬式野球連盟の役員そして全国よりOB、OG 70名のご出席をいただきました。また、当支部の会員で湘南信用金庫理事長の石渡卓氏（昭和51年貿易卒）より、当日は母高校の創立50周年記念式典と重なり欠席されましたが、お手紙と祝電をいただきました。

式典は、OGの大木真貴子さんの華やかな中にもきめ細かな配慮のある司会進行により、私自身が予想を絶する盛大で、すばらしい慰労会を開催していただきました。これをもって、無事25年間の監督生活を終了することができました。

この慰労会を3か月前から準備してくださった上沼部長、後任の監督である相良秀生氏（昭和62年貿易卒 大学職員）、ご出席いただいた学長をはじめお歴々の皆様、泊りがけでご出席くださったOB諸君（懐かしい六角橋で夜明かして飲み会をしたようです）、現役役員に感謝・感謝です。何か25年間の監督生活の苦勞が報われた思いですが、正直、肩の荷が下りホットした気持ちです。

○「準硬式野球」とは！

一般的にはあまり知られていない準硬式野球。硬式と軟式

の中間か！そうですネ。ほとんど硬式に近いです。大きな違いはボールです。硬式は表面が革ですが、準硬式はゴム（中身は硬式と同じ）です。他の道具はすべて硬式用を使用します。グラウンドも軟式用は使用できません。一見遠くから見ると打球音もカーン、カーンと硬式野球と変わりません。

準硬式野球の組織は、現在神奈川リーグ8大学（神大・関東学院・横浜国大・横浜市大・防衛大・麻布大・日大生物資源科学部・松蔭大）、関東地区73大学、全国では280大学が加盟しており、全日本大会も今年で65回を数える伝統ある組織です。我が準硬式野球部は、創部が昭和25年で63年目を迎えます。

成績は、

- ・全日本大会出場 15回
- ・第45回大会（平成5年）準優勝（仙台宮城球場）
- ・第47回大会（平成7年）ベスト4（倉敷マカト球場）

※未だ神奈川リーグからは全国優勝がありません。今後の全国制覇に期待します。

○準硬式野球部の「基本理念」

準硬式野球部は、正課外教育の一環であり「野球を通しての人間形成である」を第一に、野球の技術を高めて強くなり全国大会出場を目標にはしますが、「礼儀・挨拶・規律・約束を守る」というしっかりとした社会人になるように言い続けてきました。時として私は、部員に「野球をしたくても出来ない人が沢山いる中で、君達はできることを家族に感謝なさい」とも言ってきました。

部のモットーは、「明るく、楽しく、最善を尽くす」です。

○「永年功労賞」受賞で大学が初めて認知

昨年7月に「体育会指導者の集い」で大学より「永年功労賞」をいただきました。44ある体育会運動部の指導者20名が受賞しましたが、この永年功労賞は今回始めてOBに贈られました。この賞の対象者はボランティアとして仕事帰りや週末に後輩の指導、育成を20年以上された方々です。

この永年功労賞が始まったきっかけですが、裏話をご披露いたします。

昨年4月にゴルフで一緒に宮陵会評議委員の村田龍也氏（昭和39年経済卒）と雑談の中で、準硬式野球部の監督を25年間やってきて年齢や体調面から監督を引退することになったが、監督を永年やってきて大学から何も無いという話になり、村田氏から中島学長に会ったときに、運動部の指導者はボランティアで大学に絶大な貢献をしているということを上申するということになりました。これが今回の「功労賞」の引き金になりました。学長は、学生部に「20年以上の運動部の指導者」をリストアップさせ、「体育会指導者の

集い」で表彰する旨を指示されたものと思われます。そのスピード・行動力・実行力に感激を覚え、トップのリーダーシップとはこうあるべきだと思いました。

「体育会指導部の集い」では、学長が開口一番「準硬式野球部監督の鈴木さんが、25年間監督をされ、このたび引退されます。大学として本日永年に亘り指導者としてご苦労された方々を表彰したい」とのお話がありました。学長の目の前にいた私は、恐縮した次第です。

これまで私は、「体育会指導部の集い」などで、「理事長や学長はいつも運動部関係については、箱根駅伝や硬式野球の話しかされませんが、そのほかにもマイナーではありますが、地道に活躍しているクラブと指導者がいますので、そこにも目を向けて欲しい」と訴えてきました。

今回思ってもいなかった「永年功労賞」をいただき、心よりありがたく感謝申し上げます。

この「永年功労賞」受賞については、定年まで勤めた湘南信用金庫の社内報10月号に「神大OBの鈴木さん永年功労賞に輝く」との記事を掲載していただき、「時の人」となりました。

○監督としての最終戦

私の監督としての最終戦は、昨年11月4日（日）東京海上日動球場（八王子）で、「大学・社会人王座決定戦」の準決勝でした。相手は、昨年「準硬式野球大学日本一」の中央大学です。（全日本大会優勝10回）

試合では2点を先攻された神大が、9回表クリーンアップから始まり、1点を取り、なお2アウト満塁、一打逆転まで追い込み一歩及ばず負けはしましたが、神大の粘りははずばらしく、今後に繋がる見事な試合でした。

試合終了後、主将が「監督、胴上げに行きましょう！」と言われましたのでホームベースのところに行くと、なんと中央大の部員も勢揃いしており、「一緒に胴上げさせてください！」ということで、神大・中大の部員による胴上げで私は6回宙に舞いました。ありがとう！ありがとう！神大生・中大生！そして中央大の池田監督、コーチと握手を交わし、野球人としての気持ちと気持ちが伝わり、熱い想いを感じることができました。監督としてすっきりした気分最終戦を終えることができ、私は本当に幸せ者です。

○今後の取り組み

お蔭様でコーチ時代も含め35年間、野球を通じての人脈と全国のOBがこれからの私の財産です。そして健康第一、家族への感謝を胸に、準硬式野球部を側面から応援して見ていきます。

25年間、本当にありがとうございました。

支部同好会通信 (世話人が紹介します)

● ゴルフ会世話人:中川六郎(昭和44年経済卒)

メールアドレス: nakaroku@jcom.home.ne.jp

連絡先: 090-9003-2499



3月8日(金)、オープンゴルフコンペ第20回大会がホームコースの葉山国際カンツリー倶楽部で開催されました。6組22名が日中20度

に達する陽気の中で、プレイを楽しみました。参加者は午後から吹いた強い風と難しいパターに苦戦した様子が伺えます。

今回は、記念大会ということで、趣向を変えて卒業年次別団体対抗戦にしました。4人のネット合計で競い、一番若手チーム、鈴木(和)、佐久間、須合氏チームが優勝しました。2位、3位も若手チームがおさえました。また、個人戦のカップ取りきり戦で宮陵会会長杯を獲得したのは、諫山俊信氏でした。ドラコンは、皆川、鈴木(和)氏、ニアピンは、諫山、鈴木(和)氏でした。どなたでも参加できるオープンコンペです。ご家族、ご友人をお誘いのうえ、是非ご参加ください。次回も葉山国際カンツリー倶楽部で、7月に開催します。



葉山国際カンツリー倶楽部にて (H25.3.8)

● テニス会世話人:小池邦夫(昭和38年機械卒)

メールアドレス: kichiemu@mbj.nifty.com

連絡先: 046-875-5079



テニスコートが近くなりました。原則として毎月第3月曜日の午後1時から4時まで、葉山町役場裏手の「ラベラテニ

スクラブ」でやっています。運動不足なのでテニスでもやってみるかという方、大歓迎です。知らぬ間に万歩計の数値が数千歩になること請け合いです。お忍びで天皇陛下もお使いになったことがあるコートとか。ご家族を誘って一度冷やかし半分でお出かけください。ラケットを地面に平行にスイングすれば、ボールはよく飛んでいきます。力は要りません。要領を会得すれば、それなりに初心者でもゲームを楽しめます。

問い合わせは小池まで。お待ちしております。

● 歩こう会世話人:若林秀明(昭和39年経済卒)

メールアドレス: w-hideaki@mvd.biglobe.ne.jp

連絡先: 090-3220-1479



歩こう会に参加して下さった小池さん(昭和38年機械卒)から感想をいただきましたので、ご紹介いたします。

『季節風が強かったものの晴天の中、12月8日の鎌倉散策に参加しました。ご家族連れ of 支部会員、近隣支部からの参加者、会員の親戚、友人の娘さんなど多士済々の総勢17名は過去にない賑わいでした。企画は平坦なコースに比較的地味な名所探訪でしたが、「太刀洗」では滾滾と湧き出る清水に周囲の楓の紅葉が見事でした。若林さんの綿密な資料の準備は相変わらずですが、その地に因んで披露した挿話にはさすが地元と感心しました。帰途には鎌倉八幡宮の舞殿での数組みの華燭の典にも逢えてよい一日でした。次回は三浦半島を検討中とか。半島には奉行所のあった浦賀など歴史的名所も多々あるので楽しみです。』

(記事 小池氏)



鎌倉宮にて (H24.12.8)

●つり会世話人:清水英樹 (昭和56年法律卒)

メールアドレス: Shimih01@kanagawa-u.ac.jp

連絡先: 090-2257-0691



出張が忙しく最後の釣行となった6月から早くも11月。この5ヶ月間、釣り番組を見てはため息、インターネットで釣果を見てはため息。今年の春は鯛も1キロクラスと欲求不満はつるばかり。そこで勤労感謝の日は私の釣りのためにあるとばかりにワラサを釣りに行きました。ネットではあれだけ釣れていたのに船頭の「朝の内だけだよ」の言葉にびっくり！ 朝、必死に2匹確保。しかし当たりは止まり雨が降る。まるで修行僧のような気分。しかし、12時頃から好転し、太陽は顔を出し、1時間に13匹上げてクーラーは満杯。あとはお昼寝。気分爽快。

このような気分爽快な釣りを一緒にしましょう！

支部HP (ホームページ) からのお願い

<http://miurahanto.blog.shinobi.jp> 塩塚 定雄



支部広報のお手伝いをしていただきます塩塚 (昭和48年貿易卒) です。支部のホームページのご案内です。

お持ちのパソコンから、三浦半島支部のホームページをご覧になる簡単な方法は「三浦半島支部」と入力し、検索を押し、該当する当ホームページを選択することで閲覧できます。「お気に入りに追加」で保存しておきますと、次回以降はそこから簡単に閲覧することができます。

当ホームページの構成(メニュー)について、ご案内します。

①「トップ・掲示板」は各種開催行事のお知らせの頁。②「我が街」は支部会員の皆様から寄せられた、三浦半島(横須賀・三浦・鎌倉・逗子・葉山)地域の写真やイラストを掲載する頁。③「我らの仲間」は支部長挨拶、支部役員紹介、支部会員(投稿されたエピソード等)を紹介する頁。④「ご報告」は支部開催行事を時系列に掲載する頁で、主要行事についてはカーソルをクリックすると内容詳細を見ることができます。⑤「会則」は支部会則、年会費の振込み、会員申し込みのご案内の頁。⑥「ご

連絡:メールは本事務局宛にご連絡をする際にご利用ください。

今後、当ホームページを継続的に運用していくうえでは、情報収集が欠かせません。内容が更新されない、このような類のホームページが沢山ありますが、当ホームページは、会員以外でも見ていただけるような、魅力あるものにしていくではありませんか。多いにアクセスしてください。

今後とも支部会員の皆様からは、四季折々の地域の写真やイラスト、支部会員のエピソード等、是非お寄せください。



「ホームページ
我らが仲間より」
今月の鳥アオジ♀
(内藤氏提供)

事務局からのお知らせ

新会員のご紹介 (敬称略)

- 青木 猛 (昭和48年経済卒) 逗子市逗子
- 芝崎 元晴 (昭和41年電気卒) 横須賀市汐見台
- 渡邊 健 (昭和50年経済卒) 横須賀市不入斗

平成25年度 支部総会開催の予告

開催時期: 平成25年6月の土曜日または日曜日の昼間
場所: 横須賀セントラルホテル (京急横須賀中央駅そば)
内容: 総会・講演会・懇親会
会費: 6,000円程度
詳しくは会員向けの通知やHPでご案内いたします。

宮陵会 H25.4.1から「一般社団法人」に移行

本部名称: 社団法人宮陵会 → **一般社団法人神奈川大学宮陵会**
支部名称: 例えば 神奈川大学三浦半島宮陵会 (総会で決めます)
支部の位置づけ: 定款上は支部の位置づけはありませんが、全国各地区で活動する会員組織(支部)への助成金は、従来どおり
全国地域組織代表者会議(支部長会議): 毎年6月開催予定

会費納入のお願い



会計を担当しております若林
(昭和39年経済卒)です。

年会費の振込をお願いいたします。該当者には郵便の「払込取扱票」を同封いたしました。振替手数料は支部で負担いた

します。

◎郵便振替受入口座：00290-5-95815

宮陵会三浦半島支部

◎横浜銀行口座：久里浜支店 普通預金 1747984

宮陵会(神奈川大学校友会)三浦半島支部

●支部年会費は年間3千円、4年間前納は1万円です。

※三浦半島支部の活動は、三浦半島支部年会費で運営
しています。宮陵会本部の会費とは異なりますので、
ご注意ください。

支部年会費納入状況 (H25.3.5現在)

〔平成25年3月末まで納入済〕

(鎌倉) 篠田 拓郎、小田 進一、川瀬 元夫、
山岸 一輔
(逗子) 田原 清彦
(横須賀) 鈴木 昭利、沖 丞、萩原 孝、
角谷 彰、蛭子 英二、石井 一男、
上原 章道、菊池 武、浅山 正義、
武井 利徳、青山 隆一、松井 一郎、
長島 保雄、永野 茂、植山 修治、
石渡 卓、市川 国男、霧田 俊秀、
三縄 義和、島崎 和久、寺西 厚、
伊藤 一利、久根口昭二

〔平成26年3月末まで納入済〕

(鎌倉) 石井 和行、若林 秀明、古川 勝彦
(逗子) 岸本 光瑞、深津 敏夫
(葉山) 岩澤 正之
(横須賀) 山内 元式、八嶋 政臣、中山 廣男、
南雲 忠男、落 勝廣、大倉 国光、
村田 龍也、結城 康雄、長谷川征勝

(横須賀) 金井 昌孝、熊澤 勝喜、福島 康臣、
砂川 正夫、森下 守久、鈴木 稔、
金野 義勝、野村 晴男、嶋田 晃、
塩塚 定雄、舟崎 学志、内藤 正久、
清水 英樹、工藤 真也、川口 好孝、
渡辺 健

(三浦) 原 柳作、石渡 大輔

〔平成27年3月末まで納入済〕

(鎌倉) 小澤 光、矢澤 基一、田中 章仁
(葉山) 中川 六郎、石渡 俊一
(横須賀) 石田 泰教、松岡 和行、鳥海 洋義、
星山 正範、鈴木 康介、稲垣 茂、
嶋田 順子

〔平成28年3月末まで納入済〕

(鎌倉) 井口 淳
(逗子) 長澤 良成
(葉山) 米田 光男、小池 邦夫
(横須賀) 塚田 尚、奥野 晶洋、久保田宣彦、
相原 充、鈴木 和夫、伊澤 隆雄、
鈴木 三郎、鈴木 伸夫、二井美恵子、
堀越 昌樹、箕輪 義夫、名取美佐男、
西脇 幸二、江尻二十三、田中 弘、
(三浦) 源代 价克、塩谷 宏之

合計：94名

～編集後記～

今年の冬は随分寒かったですね。「山高ければ、谷深し」。例えとしては悪いですが、もしかすると今年の夏は、かなり暑くなるのかもしれない。世は、「アベノミクス」の期待から円安・株高が進む中、経済の状況が変化してきたようですが、行き過ぎるとまた「谷」が深くなるのではないかと今から心配です。

さて、我が三浦半島支部では、今年度組織の強化を図るために役員を増やしました。まだまだ当支部は山を登っている途上ではありますが、役員も毎年歳を重ねていく訳ですので、1人でも多くの皆さんの英知を集めるために、新たな血を導入いたしました。将来の「谷」に備えて、今から準備をしているところです。新たな会員の確保や積極的な会への参加・協力を求めています。皆さん、どうかよろしくお願いたします。(N)